

謝している。

参加地区制は表 2 の 5 地区に区分し、その地区内にある大学から地区内の会場の見学会に参加するということを原則としていたが、第 4 回からは隣接地区まで参加できることとなった。また隣接地区を超えて遠方の会場に参加する場合は、所定の交通費補助額を支給して、これと実際の交通費との差額を参加者が自己負担するものとしている。複数会場に参加した場合は指定地区内の場合と同様に 1 回分を支給している。

交通費補助の総額は表 1 に見るとおりであり、第 5 回については、参加人員が予想以上の人数になったため、補助額のうち 590 万円を会場提供会社に負担願うこととなったほかは、本会の 70 周年記念事業資金から支出している。

#### 4. 大学の協力と関係学協会の協賛

この見学会への参加勧誘は本協会から各大学の金属、材料、機械、電気、システム、化学、物理、建築、土木等関係各学科の学科主任に対して行っている。ダイレクトメールは 3 000 通余に達している。また本協会会員になっている大学人に対しても学生への参加勧誘をお願いしている。その結果、参加者に対するアンケートによれば、46% (第 5 回) は先生の紹介によってこの見学会を知ったと回答している。これは大学の掲示板に張り出さ

表 3 協賛学会

(社)日本工学会, (社)応用物理学会, (社)化学工学会,  
(社)計測自動制御学会, (社)電気学会, (社)電子情報  
通信学会, (社)土木学会, (社)日本化学会,  
(社)日本機械学会, (社)日本金属学会, (社)資源・素  
材学会, (社)日本材料学会, (社)日本塑性加工学会,  
(社)日本建築学会 以上 14 協賛学会

れたポスターにより知ったもの 24%, 見学会の案内パンフレットによるもの 16% と比べ格段の差がある。大学の先生方の本見学会に対するご協力と、学生へのご推奨に感謝している。今後ともご高配をお願いするしだいである。

他方、多岐にわたる学科へ、参加を呼びかけるために関係学協会に協賛をご依頼して、14 学協会のご賛同を得ている。見学会の案内状をダイレクトメールするために学生会員の名簿を使用することもご許可いただく等、これら学協会から広範なご協力を得ている。

見学会に参加した学生諸君の 66% から有意義な見学会であったとの評価を得ていることをご報告すると共に、受け入れ会場、大学関係学科、関連学協会等の皆様のご協力に感謝の意を表します。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆

### 鉄鋼 JIS の SI 単位移行対応指針の作成と説明会

鉄鋼 JIS は、平成 3 年 1 月 1 日からいっせいに SI 単位に切り換えることになり、SI 単位予告の規格改正が昭和 63 年までに終了したが、SI 単位移行を間近にし未検討であった実施上の実務的課題を討議するため標準化委員会内に「SI 単位移行実施小委員会」を設けて 1 年にわたり協議し、鉄鋼 JIS の SI 単位化対応指針及び PR 用の SI シートを作成した。以下にこれらの概要等について述べる。

#### [A] 鉄鋼 JIS の SI 単位化統一対応指針の概要

##### 1. 規格ごとの切換え時期

- (1) 鉄鋼 JIS (JIS-G) の SI 単位規格は、平成 3 年 1 月 1 日以降の受注分から適用する。
- (2) 各社が保有する独自規格や協定規格 (協定仕様) の SI 単位化は次のとおりとする。
  - イ. 独自規格は、平成 3 年 1 月 1 日以降、順次 SI 単位化して平成 4 年 3 月までに切り換えることを目標とする。ただし、JIS と密接な関係のある規格は、鉄鋼 JIS の切換えに合わせる。
  - ロ. 協定規格 (協定仕様) の SI 単位化は、顧客の了解を得てから切り換える。その時期は、関連する動きを見定めつつ決める。
- (3) 公的規格や技術基準は、そのおのものの SI 単位化

動向に合わせて、その都度対応する。

##### 2. JIS マーク表示について

- (1) 平成 3 年 1 月 1 日以降、従来単位並びに従来記号によって製造した製品には、JIS マークは、表示できない。
- (2) 平成 2 年 12 月 31 日までに製造済みの在庫品や、その時点の中間仕掛品を平成 3 年 1 月 1 日以降、旧 JIS のまま出荷する場合、JIS マークの表示は可能。
- (3) 強制法規で引用されているため、旧 JIS で発注せざるを得ないものの受注・製造は旧 JIS のままで対応するが、JIS マークは表示できない。
- (4) 平成 3 年 1 月 1 日以降も旧 JIS による受注・製造が可能な体制を維持するが、極力 SI 単位規格で発注のこと。

##### 3. 鋼材検査証明書と製品カタログの SI 単位表示について

- (1) 鋼材検査証明書 (ミルシート)  
平成 3 年 1 月 1 日以降の受注で、SI 単位規格による JIS 製品に対する鋼材検査証明書は、SI 単位で表示する。従来単位の併記は、原則として行わない。
- (2) 製品カタログ  
記載されている規格の SI 単位化に合わせて、製品カタログを SI 単位表示に切り換える。従来単位の併記は、原則として行わない。

##### 4. その他の統一実施事項 (鉄鋼業界内)

###### 4.1 文書類の SI 単位化について

- (1) 通産省へ提出する書類

日本工業規格表示許可商品生産状況等報告書は、平成 3 年度分（平成 4 年 5 月末の提出分）から SI 単位で記述する。

## (2) 対外的な発表技術資料

平成 3 年 1 月 1 日以降、原則として SI 単位を使用する。

### 4.2 計測機器類の SI 単位化について

#### (1) 生産設備の計測機器

生産設備に付随する各種の圧力計については、鉄鋼 JIS の SI 単位化に連動して SI 機器への変更は行わない。

#### (2) 品質保証のための機械試験機

鉄鋼 JIS の SI 単位化に関係ある引張試験機、衝撃試験機、硬さ試験機、鋼管の水圧試験機は、次のように SI 機器へ変更する。

イ. 平成 3 年 1 月 1 日以降に新設する場合は、原則として SI 機器または、容易に SI 単位に切換え可能な試験機を採用する。

ロ. 従来単位の機械試験機は、平成 3 年 1 月 1 日以降に SI 機器への切換え計画を推進する。

### 4.3 機械試験値の換算方式採用について

(1) 平成 3 年 1 月 1 日以降、SI 単位による機械試験の実行体制が整えられるまでの期間 SI 単位規格で受注した製品については、社内の運用方法として SI 単位を従来単位へ換算して処理することを可とする。

(2) 従来単位の試験値を SI 単位に換算する場合は、右表による。

#### [B] SI シート

両面 4 色刷りで、片面には取引の参考のために、SI とは、鉄鋼 JIS で使用する主な SI 単位、従来単位から SI 単位へ、SI 単位から従来単位への換算式を記述し、裏面には、SI 単位化に伴い記号が変更される 57 規格の新記号、旧記号の対比表が掲載されている。

#### [C] SI 単位化移行の普及および説明会

対応指針 3 万部、SI シート 13 万部を協会及び鉄鋼会

| 項 目       | 引張試験値                   | 衝撃試験値                                         |
|-----------|-------------------------|-----------------------------------------------|
| 換算前の単位    | 応力値 kgf/mm <sup>2</sup> | 吸収エネルギー<br>kgf・m<br>衝撃値 kgf・m/cm <sup>2</sup> |
| 換算係数      | 9.80665                 |                                               |
| 換算後の単位    | 応力値 N/mm <sup>2</sup>   | 吸収エネルギー J<br>衝撃値 J/cm <sup>2</sup>            |
| 換算前後の有効数字 | (前) 少数点以下 1 位, (後) 整数   |                                               |

社から各需要家に配布すると共に 4～5 月東京、7 月大阪、9 月札幌、名古屋、高松、広島、博多、10 月仙台、沖縄の各地区で開催された説明会に 2 203 名が集まり、SI 単位移行への成果が得られた。

また、4 月以降工業技術院から各省庁への SI 単位移行の働きかけ、6 月には JIS 全体が 5 年計画で SI 単位に移ることの議決、8 月には通産大臣から計量行政審議会に対して SI 単位を優先させる計量法改正の諮問などが追い風となって、SI 単位への関心が一段と高まり、SI 単位に対する問い合わせが毎日 7～8 件に及んでいる。なお、これらの資料は次の会社に販売を委託しており、FAX での注文に応じている。

委託会社：(株)アイレック

住所：〒103 東京都中央区日本橋本石町 4-5-8

京央(けいおう)会館 3 F

電話：03-3241-2760 FAX：03-3244-0770

価格：PR 用 SI シート 1 部 100 円 重さ 45 g

鉄鋼 JIS の SI 単位化対応指針

1 部 250 円 重さ 130 g

☆☆☆☆☆☆☆☆

## 鉄鋼技術情報センター

センター新着図書 照会先：鉄鋼技術情報センター 電話 03-3241-1228

| 書 名                                     | 著者・編集者名     | 出版年  | 頁数  |
|-----------------------------------------|-------------|------|-----|
| 生きることすべてに —新日鉄 20 周年記念誌—                | 新日本製鉄(株)    | 1990 | 163 |
| ブレージングアップ川鉄                             | 川崎製鉄(株)     | 1990 | 253 |
| 地球温暖化の対策技術                              | 公害資源研究所     | 1990 | 329 |
| 広畑製鉄所 50 年史 総合史・部門史                     | 新日本製鉄(株)    | 1990 | 755 |
| 500 N/mm <sup>2</sup> 級 TMCP 鋼の PWHT 特性 | 日本鉄鋼協会      | 1990 | 72  |
| 建築業協会三十年史                               | 日本圧力容器研究会議  |      |     |
| 鉄鋼主要設備動向                                | 建築業協会       | 1990 | 449 |
| 水素吸蔵合金の話                                | 川鉄テクノロジーサーチ | 1990 |     |
| 太陽の化石・石炭                                | 大角 泰章       | 1990 | 162 |
| 第 135 回西山記念技術講座—21 世紀の鉄鋼業—              | 西岡 邦彦       | 1990 | 248 |
|                                         | 日本鉄鋼協会      | 1990 | 168 |